

日本大学理工学部まちづくり工学科における景観教育

日本大学 理工学部 まちづくり工学科 正会員 ○天野 光一
 日本大学 理工学部 まちづくり工学科 正会員 岡田 智秀
 日本大学 理工学部 まちづくり工学科 正会員 阿部 貴弘

1. はじめに

2013（平成25）年4月、まちづくりを科学的かつ客観的に展開することができる工学系の専門技術者を養成するため、日本大学理工学部にて『まちづくり工学科』が誕生した。“まちづくり”を学科名に冠し、専門的かつ総合的にまちづくり教育を行う、我が国ではたいへんめずらしい特色ある学科である。

まちづくり工学科では、教育理念を「工学技術を有し、実践的思考を通して、安全で魅力的なまちづくりを図る、豊かな知識や感性および創造力を備えた、まちづくりプランナーやまちづくりデザイナーを養成する」と定め、この理念のもと、「美しさ、楽しさ、安全・安心を探究する“まちの総合デザイン”」を学びのテーマに掲げ、カリキュラムを構成している。そのカリキュラムの柱の一つを構成しているのが、「景観学系」と銘打った景観教育である。

本報告では、まちづくり工学科のカリキュラムの概要と、その中での景観教育の位置付け及び特長について報告する。

2. まちづくり工学科のカリキュラム

本学科のカリキュラムは、専門教育科目を「エンジニアリング科目群」と「マネジメント科目群」の2つの科目群で構成している（図-1）。

まず、「エンジニアリング科目群」は、まちを構成する諸施設の設計法や、資格試験に必要な知識を身につけるための科目群で構成している。

一方、「マネジメント科目群」は、“まちの美しい風景の保全・創造”（「景観学系」），“訪れたい魅力あるまちの創造”（「観光学系」），“人にやさしいまちの創生”（「福祉学系」）をそれぞれめざす学際的専門分野3系列とともに、安全安心なまちづくりを実現するための手法論・関連法制度・資金調達制度等を学ぶ「総合系」の全4系列をバランスよく学ぶ科目群で構成している。

また、まちづくりにおける地域住民の合意形成に資するコミュニケーション能力を養う「まちづくりワークショップ」や、魅力的な空間形成に向けたデザイン力をみがく「都市・地域デザイン演習」などの科目も配置し、実践的能力を養うカリキュラムとしている。

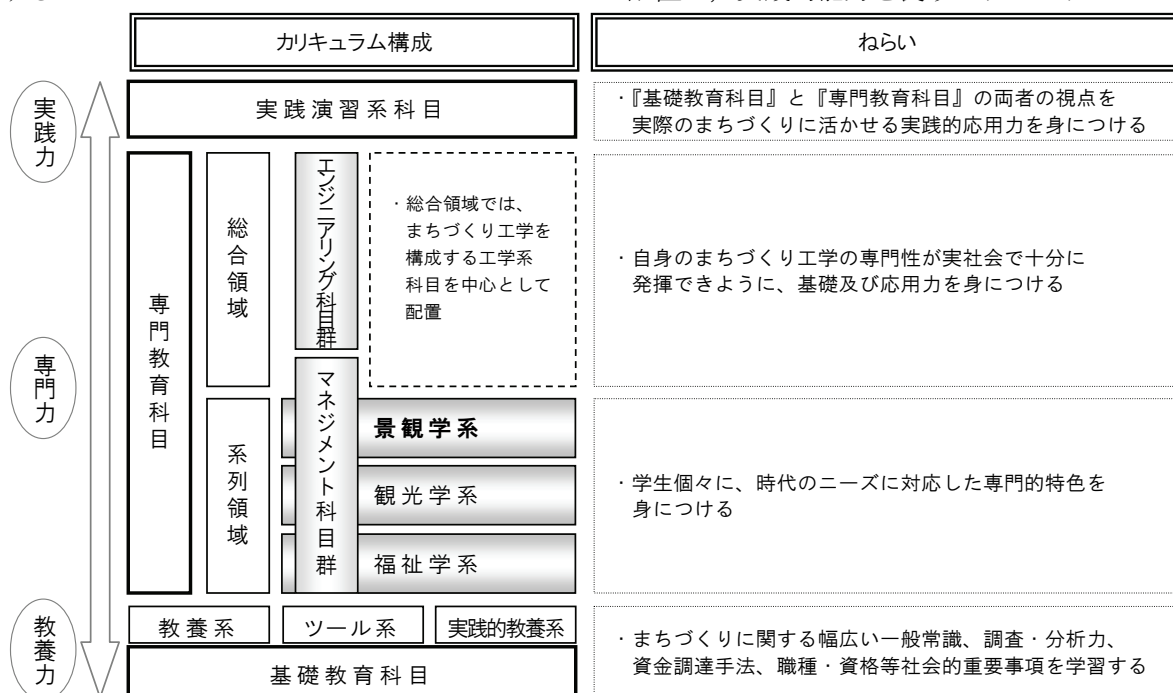


図-1 まちづくり工学科のカリキュラムの枠組み

キーワード まちづくり、景観教育、カリキュラム
 連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 TEL 047-469-5507

3. まちづくり工学科の景観教育の位置付けと特長

前述のとおり、まちづくり工学科では、カリキュラムの柱の一つに「景観学系」を位置付けている。

この「景観学系」は、まちを構成する施設や構造物の単体デザインだけではなく、それらが群になったときの“まち並みとしての美しさ”をはじめ、地方の農村・山村・漁村など“ふるさとの風景”の創造、海岸や河川・山並み等の“自然風景”の保全など、まち全体の美しさを探求する学問系列と定義付けている。

景観学系の諸科目は、主に2年次、3年次の科目として配置している(表-1)。科目配置の特長として、まず、2年次で景観に係る基礎的な内容を学習し、そのうえで、3年次でそれらのまちづくりにおける実践手法や考え方を学習する構成としている。各科目の概要は、表-2に示すとおりである。

これらの景観学系の科目に加え、エンジニアリング科目群や他の学系に位置付けられる科目も含めて、景観系の履修モデル(表-3)を提示し、まちづくりの現場で即戦力として活躍することのできる景観の専門家の養成に努めている。

その他の特長として、文学や法学など、とすれば景観やまちづくりの専門的教育と乖離しがちな教養科目においても、著名文学で描写された地域・空間的特徴や、土地・不動産関連法規を学ぶなど、当学科の専門に直結する教養教育を展開している。

また、日本大学理工学部では、体系づけられた科目群からなるサブメジャーコースを履修することで、所属学科の学位とは別に特定分野の学習成果を認定するサブメジャー(副専攻)制度を設けている。景観に関しては、まちづくり工学科、交通システム工学科、海洋建築工学科の3学科にまたがる景観関連科目群により構成する「景観サブメジャー」を設定し、3学科の連携による幅広い景観教育に努めている。

表-1 景観学系の科目配置

科目名	年次	単位数	選択必修
景観原論	2	2	必修
景観デザイン演習	2	2	必修
景観生態学	2	2	選択
グリーンランドスケープⅠ	2	2	選択
グリーンランドスケープⅡ	3	2	選択
景観まちづくり論	3	2	選択

表-2 景観学系の科目概要

科目名	科目概要
景観原論	景観計画やデザインの基本となる知識および景観的なものの見方を習得し、美しいまちをデザインする総合力を身に付ける。歴史・文化から要求される景観整備を理解し、計画技術、力学等の技術を習得した技術者としての景観整備へのかかわりを理解する。
景観デザイン演習	地区レベル(1/500～1/2, 500程度)や広域レベル(1/10, 000程度)を対象として、公共施設や公共空間のデザインを中心に、デザインプロセスをはじめ、図面作成・表現技法など、地域的な広がりを持つまちづくりの実践的なプロセスを習得する。
景観生態学	地域をひとつの生態系として総合的に捉え、自然的・社会的要素の相互関係の理解を通じて、自然環境管理の基礎としての景観生態学の意義や理論およびフィールドを理解し、一次産業に係る景観の成り立ち、ビオトープ造成、湿地管理などの計画と技術を学習する。
グリーンランドスケープⅠ	わが国における緑地・公園の制度、機能、役割、整備方法の基本を学ぶ。特に自然、社会システムにおける緑地・公園の重要性について理解し、緑化や自然修復など、生きものを取り扱う技術の特徴について学習する。
グリーンランドスケープⅡ	生活環境を構成する植栽の意義や特性、植栽の設計・施工・管理の基礎となる植物・植生と気象・土壌などのかかわり、生活環境に求められる様々な機能、植栽の施工・管理技術について学習すると共に、それらを総合する考え方や技術について学習する。
景観まちづくり論	景観まちづくりには、住民と行政との連携、利害関係者の合意形成、地域の産業と景観とのかかわり、法制度間の整合と調整も不可欠であるため、景観まちづくりの計画段階から実際の景観形成に至るまでの一連の主要プロセスを具体的な実践事例を通じて学習する。

表-3 景観系専門家養成履修モデル

種別	科目名(選択/必修・単位数)
景観学系	景観原論(必修・2) 景観デザイン演習(必修・2) グリーンランドスケープⅠ,Ⅱ(選択・各2) 景観生態学(選択) 景観まちづくり論(選択)
その他	まちづくりワークショップⅠ,Ⅱ(必修・各2) 国土・地域計画(選択・2) ウォーターフロント計画(選択・2) 歴史・文化とまちづくり(選択・2) 都市・地域デザイン演習(選択・2) まちづくり倫理学(選択・2)

以上の景観学系の科目は2年次以降に配置されていることから、平成25年度開設のまちづくり工学科で実際に景観学系の科目が開講するのは、平成26年度以降である。

まちづくり工学科における実践を踏まえた景観教育の課題と成果については、機会を改めて報告したい。